

## 台湾におけるパーティクルボードと ファイバーボードの輸出入

過去 30 年間、台湾ではパーティクルボードとファイバーボードの生産は行われておらず、輸入に頼っている。この2種のボードはオフィス家具やインテリアに用いられているが、そのほとんどは表面が貼付加工された化粧パーティクルボード、化粧ファイバーボードとして供給される。パーティクルボード、ファイバーボードが素地のまま使われることはほとんどない。一般的な表面貼付加工は、単板、印刷紙、特にフェノールホルムアルデヒド樹脂 (PF)、メラミンホルムアルデヒド樹脂 (MF) を含浸させたクラフト紙を貼った後、ホットプレス接着して、化粧パーティクルボードや化粧ファイバーボードに仕上げるもので、用途が広い。家庭、オフィス、キッチン、店舗で利用できる。このような加工が施されているため、防湿、防水、耐摩耗性などの効果がある。

過去 5 年間のパーティクルボードの年間輸入量は 345,488~448,598m<sup>3</sup>、ファイバーボードは 94,275~170,032m<sup>3</sup>で、輸入元は主にヨーロッパ、東南アジア、中国大陸であった。輸出量はパーティクルボードが 768~1,564m<sup>3</sup>、ファイバーボードが 5,120~6,950m<sup>3</sup>で、輸入に比べ非常に少ない。これは、台湾ではこれら2種製品に対する需要が多いことを示している。将来的に木材資源を有効利用するために、提案としては、大規模なパーティクルボード、ファイバーボード工場を建設して、木材加工端材からこれらを生産すれば、現地ニーズも満たし、二酸化炭素を材料内部に貯蔵して炭素固定期間を延長することも可能である。